
令和4年 第1回定例会

一般質問 松本 洋之議員

令和4年 2月24日

▶質問

皆さん、おはようございます。大橋武司議員に代わって質問をいたします。理事者の皆様には、明快な答弁をどうぞよろしくお願いをいたします。

まず、SDGsへの取組についてお伺いをいたします。

SDGs、持続可能な開発目標が、2015年、国連で採択され、193か国の全加盟国が賛同する、まさに世界が同意した、2030年までに目指すべき国際目標であります。現在、我々の暮らす地球は、今のまま発展していけば環境が破壊され、自然災害で大勢の方々が亡くなったり、住む場所を追われたり、近年、世界各地で気候変動による自然災害が頻発するなど、行く行くは人類の存続自体が危くなる可能性もあり、地球環境と共生しながら、世界が持続して発展していけるよう、2030年を目指して、全部で17個の目標を決め、それぞれの目標の下に具体的なターゲットが合計169個挙げられており、それを大きく分けると、経済、社会、環境の三つに関する目標になります。経済に関する目標は、働きがいのある人間らしい仕事の仕方や経済をどう成長させるかといった指標。社会に関する目標は、飢餓や貧困、男女不平等、教育格差などの問題解決を目指す。環境に関する目標は、海や陸の豊かさを守り、地球温暖化を防ぐための具体的な行動が呼びかけられており、大切なのは、この三つの目標が全てつながっているということであります。

一人ひとりが17個の目標のうち一つでも取り組めば、他の目標達成にもつながっていく、SDGsの基本理念は、誰も置き去りにしない世界をつくるであります。相手の立場に立って痛みや苦しみを感じ、自分のこととして捉える、そして、地球環境と人類が共生し続け、一人ひとりが尊重され、輝いていける、そうした、これからの未来を目指して、自分のできることから取り組んでいくことあります。

そこでお伺いをいたします。まず大切なことは、子どもから大人まで、区民の皆様に広く、具体的にSDGsについて知っていただき、身近に感じていただくことであり、そして、お一人お一人、ご自分たちから、また企業からなど、自発的に未来に向けて取り組んでいけることが大切であります。そうした意味では、個人、企業、行政など、取組事例を積極的に区民の皆様に広報していくことも大切と考えます。本区は新年度予算案に、SDGs推進会議を設置し、大田区の特長や地域課題を踏まえて、環境と経済の両立を目指すSDGsの取組を推進しますと表明しておりますが、区の

取組について、具体的に分かりやすく考えをお示しください。

SDGsは、大田区一体となって、楽しく取り組んでいくことが大切です。提案ですが、区民にとっても人気のある大田区公式PRキャラクター、はねびよんのすてきなSDGsバッジやキーホルダーなど作成を提案、要望いたします。

また、区民の皆様、そして企業なども自由にはねびよんのSDGsの絵やロゴの画像を使用できるよう取り組んでみてはいかがでしょうか。はねびよんのSDGsバッジをきっかけに、SDGsの知識や取組が広がればとてもいいことであり、子どもたちや、これから社会を担っていく若い世代の方々、そして年配の方々にも興味を持っていただくきっかけになるかもしれません。また、仕事においても、はねびよんのSDGsバッジが話のきっかけとなり、普及啓発への効果が期待できる可能性もあります。こうした区の取組は必ず広く効果が現れるものと考えます。ぜひ、つけたくなる、持ちたくなる、取り組みたくなるようなすてきなはねびよんのSDGsバッジ、キーホルダーの作成やロゴの使用などによるPRを通じて、幅広い世代への普及啓発を行ってはいかがでしょうか。区の見解をお答え願います。

SDGsで何より大切なのは、我々の心、ハートであり、ソフトがあつての取組です。目標の2030年まであと約8年、貧困、教育、労働、環境、ジェンダー平等など、課題解決に向けて、誰一人取り残さないとの考えの下、今、区が積極的に取り組み、発信していくことがとても重要であります。大田区はもとより、世界の子どもたちの未来のためにも、持続可能な明るい未来に向かって、区の積極的な取組に期待をし、次の質問に移ります。

次に、以前から要望させていただいております、宇宙飛行士と区民との交流についてお伺いをいたします。

ニュースでも発表となり、大田区民の方で応募されている方がいらっしゃるかもしれませんが、このたび、宇宙航空研究開発機構JAXAが13年ぶりに宇宙飛行士の募集を発表し、昨年12月20日から来月3月4日まで募集を受け付けております。前回13年前の宇宙飛行士募集条件は、理系の4年制大学を卒業していなければならない、加えて、3年以上の実務経験など、限られた条件でしたが、このたび、新たな宇宙飛行士募集につきましては、日本人宇宙飛行士の活動の場が国際宇宙ステーションや日本実験棟「きぼう」、そして、月周回有人拠点「ゲートウェイ」や月面に広がることを想定し、様々な才能を備えた優秀な人材を発掘するために、より多くの人々の応募が必要とのことで、学歴、年齢、性別は問わないなど、世界で初めてと言われるほど、条件を緩和した宇宙飛行士の募集を行っており、話題となっております。また一昨年、民間の企業が開発した宇宙船で、日本人として初めて宇宙へ行き、5か月半国際宇宙ステーションに滞在し、ミッションを成し遂げられた宇宙飛行士の野口聡一氏や、続いて国際宇宙ステーションに向かい、約半年間のミッションを終えて昨年11月に無事帰還された星出彰彦宇宙飛行士。さらに、昨年末には実業家

の前澤友作氏が、日本の民間人として初めて国際宇宙ステーションに滞在したことも大きな話題になりました。宇宙へは、限られたごく一部の人が行くことができないと思っていたことが、宇宙飛行士にもなれる、宇宙旅行も行ける可能性はどんどん広がりつつあります。宇宙飛行士との交流は、夢や希望だけではなく、環境を守り、命を守ること、多様性を尊重し、相手を理解し、共に力を合わせて生きていくこと、平和への心や人類が生きていく上で必要な大切なことが多く学べます。

今回、野口宇宙飛行士が船長を務められた宇宙船の機体の名前は、困難な状況から回復する力を意味する「レジリエンス」と名付けられました。世界が新型コロナウイルスに苦しむ中で、宇宙への挑戦を続けることで、困難からの回復を身をもって示そう、苦しむ世界が元に戻るための力になりたいとの思いを込めて、搭乗員4人で相談して決められたとのことでもあります。宇宙飛行士からの話は、全て持続可能な開発目標SDGsにつながります。また、産業面からも、国際宇宙ステーションと地上とで、遠く離れながら分刻みのスケジュールをこなしていられる仕事は究極のテレワーカーと言われており、新しい生活様式、ニューノーマルともつながります。また、本区におきましては、宇宙船の部品も造れるほどの世界に誇れる技術力もあり、あらゆる角度で、宇宙飛行士との交流は意味の大きな取組になります。ぜひとも、本区の子どもから若者、大人までが、宇宙飛行士と交流ができるよう要望をいたしますが、区の見解をお答え願います。

次に、特別養護老人ホームの増設についてお伺いをいたします。

誰もがいずれは高齢となり、避けては通れない介護ですが、老後の安心を支える介護基盤の充実を目指していかなくてはならない課題であります。現実の問題として高齢者が高齢者を支える老老介護、認知症の方が認知症の方を支える認認介護、そして医療費や介護費用など、経済負担、身体的にも精神的にも深刻な問題です。本区も、介護施設整備、相談体制、支援強化、見守り、健康維持への取組など、積極的に行っていただいておりますが、どうしても施設に入らなくては生活できない状態になった場合、当然、ご本人はもとより、ご家族もサービスのいい安心して生活できる施設に誰もが入りたいと思います。しかし現実には、経済的な負担が大きく、特別養護老人ホームなどの介護施設への入所を希望して申し込みますが、希望者も多いため、介護度が高い方でも入所待ち状態が続いており、やむなく区外の遠くの施設に入所せざるを得ないなど、私の下にも、区民の方から直接ご相談をたくさんいただいております。本区も介護施設整備に取り組んでいただいておりますが、高齢者、またご家族の安心を支えるため、特別養護老人ホームなど、介護施設増設はまだ必要と考えます。区の見解をお聞かせください。

次に、带状疱疹予防ワクチン助成についてお伺いをいたします。

80歳までに約3人に1人が発症すると言われております带状疱疹ですが、原因はご存じの方も多いかと思いますが、子どものころになった水ぼうそうが原因であります。水ぼうそうが治った後も、このウイルスは長い間、体内の神経節に潜伏しており、ふだんは体に備わる免疫力によってウイル

スの活動が抑えられておりますが、加齢や疲労、ストレス、病気などの免疫力の低下によりウイルスが活性化して、帯状疱疹が発症します。子どもの頃に水ぼうそうになったか覚えていない方もいらっしゃるかと思いますが、日本人の成人のほとんどの方が水ぼうそうに感染したことがあることが考えられると、医学的には言われております。そうした意味では、誰もが帯状疱疹を発症する可能性があり、特に50歳を過ぎると発症が増え、先ほど申し上げました80歳までに3人に1人が発症すると言われております。帯状疱疹の症状には個人差がありますが、このウイルスは神経を傷つけながら皮膚に向かうため、多くの場合は、チクチク、ピリピリとした痛みが皮膚に生じ、数日後に水膨れを伴う赤い発疹が神経に沿って帯状に現れます。そのため帯状疱疹と呼ばれます。症状は、体の左右どちらかに現れるのが特徴ですが、ごくまれに両側に発症する場合もあり、多くは上半身に現れますが、顔面や頭部に現れることも少なくありません。痛みは徐々に強くなっていき、眠れないほど激しい痛みにも襲われる場合もあります。多くの場合、皮膚症状が治まると痛みも消えますが、ウイルスが神経を大きく傷つけてしまうと、皮膚の症状が治った後も痛みが続くことがあり、3か月以上続く痛みは帯状疱疹後神経痛、PHNと呼ばれます。その痛みは、電気が走るような、焼けるような持続性の痛みや、ズキンズキンとする痛みがあり、そして、軽い接触だけでも痛むアロディニアと呼ばれる痛みなどが混在しており、日常生活に深刻な影響を及ぼすなど重篤な場合があります。

50歳以上で帯状疱疹を発症した人のうち、約2割がPHNになると言われており、80歳以上の高齢の方では約3割と、より高くなっております。帯状疱疹の症状が顔面や頭部に現れた場合、目や耳の神経が傷つき、視覚や聴覚に異常が起こることがあり、重症化すると視力低下や失明、顔面神経麻痺、耳の神経への影響から耳鳴り、難聴、目まい、そして、髄膜炎、脊髄炎、脳炎などの症状が生じ、帯状疱疹は様々な合併症を引き起こすおそれもあるため、症状が現れたら早期に治療を受けることが大事になります。

また、帯状疱疹は一度なった方でも、体の免疫力の低下が原因で発症しますので、再び発症する可能性もあり、日頃からの食事のバランスや睡眠、体調管理を心がけることが何より大切であるとともに、現在50歳以上の方はワクチン接種で予防することができます。ワクチンには生ワクチンと不活化ワクチンがあり、生ワクチンは1回接種ですが、予防効果は約50%から60%、持続期間は5年程度、免疫が低下している方には接種できず、料金は約8000円ほどかかります。不活化ワクチンは、2回接種で、予防効果は約90%以上、持続期間は9年以上と長く、免疫が低下している方も接種でき、予防効果も高いのですが、料金は1回接種で約2万円、2回接種で約4万円とかなり高額となります。ワクチン接種は帯状疱疹を完全に防ぐものではありませんが、ウイルスに対する免疫力が強化され、帯状疱疹の発生率の減少、PHN、帯状疱疹後神経痛の発生率も減少、重症度も低下するなど、国立感染症研究所の報告にも掲載がされており、帯状疱疹はワクチン接種

で予防できます。生ワクチンである水痘ワクチンは、2016年に带状疱疹にも適用が拡大され、不活化ワクチンであるシングリックスは、2020年1月に認可されました。

そこでお伺いいたします。带状疱疹ワクチンの効果を、区としてはどのように捉えられておりますでしょうか。また、带状疱疹を予防できるワクチンのことを区民の皆様あまり知られていないように思いますが、お知らせしていくことも大切かと思えます。いかがでしょうか。

そして、带状疱疹ワクチン接種費用は高額になります。現在、国では定期接種化について、厚生労働省の審議会で議論が交わされておりますが、結果が出るまでにはかなりの時間を要すると思われま。区内では、文京区が最初に助成制度を始めておられ、全国の各自治体でも行っているところでもございます。ぜひ、本区におきましても、区民の健康を守るため、带状疱疹ワクチン接種助成への取組の実施を要望いたしますが、区の見解をお答え願います。

以上、区民の皆様が希望を持てる取組を期待し、全質問を終わります。ありがとうございました。

<回答>

▶ 齋藤企画経営部長

私からは、SDGsに関連する二つのご質問にお答えをさせていただきます。

SDGs推進会議の下で区が推進するSDGsの取組についてのご質問でございますが、区がSDGsを着実かつ強力に推進することは、世界共通の目標達成に寄与するとともに、地域の課題解決及び持続的な発展につながるものと考えてございます。SDGsの推進に当たりましては、まず約73万人もの人口を有し、ものづくりをはじめとする様々な産業活動が活発に行われている大田区の強みや課題を的確に捉えまして、ターゲットを定めた上で、戦略的に取り組んでいく必要がございます。このたび、その設置について条例案を上程させていただきました大田区SDGs推進会議につきましては、有識者や区内事業者等にご参加をいただきまして、区を取り巻く変化の潮流や地域課題を鋭敏に捉えまして、SDGsにおいて重視される経済、社会、環境の3側面の調和、中でも環境と経済の両立をメインテーマに掲げまして、大田区ならではの取組を推進するための戦略をご検討いただく予定でございます。推進会議の幅広い知見を活用させていただきまして、近年大田区にも影響が及んでいる気候変動への対応や、区内の経済活動の持続可能性を高める取組を効果的かつ着実に進めてまいります。

次に、SDGsの普及啓発に関するご質問でございますが、SDGsの達成を図るためには、国や地方自治体、一般市民、事業者など、多様な主体が一丸となって連携・協力し、それぞれの役割を果たすことが重要でございます。SDGsの認知度は年々高まっておりますが、例えば令和3年7月から9月期に実施いたしました大田区中小企業の景況調査におけるSDGsについての特別調査の結果によりますと、「SDGsについてあまり知らない」と回答した企業の割合は53.8%でございました。また、「SDGsに取り組む予定はない」と回答した企業の割合は66.3%に及んでおりまして、その理由として最も多かったのは「SDGSに関する詳細な取組イメージが浮かばない」というものでございました。この結果を分析すると、単にSDGsという言葉を知っているだけではなく、その内容を理解し、SDGsを自分事として捉え、いかに実際のアクションにつなげていくかが重要であることが分かります。住民生活に最も近く、地域の特性や課題等の実態に即した施策を推進する立場にある区は、各種計画や施策とのひも付けや、多様な媒体による情報発信、また、公式キャラクターの活用などを通じて、広くSDGsの理解を促進しまして、行動を促すための普及啓発を積極的に行い、世界共通の目標である17ゴールの達成を目指してまいります。

それから今、私SDGsの公式バッジをつけておりますが、ご提案があったことも含めて、その浸透を図ってまいりたいと考えてございます。また、SDGsにつきましては、17の目標と169のターゲットという非常に多岐にわたるものですから、この全てを一遍にやるということではなくて、焦点を絞って来年度はやりたいと考えておりまして、その意味で、大田区ならではのことで、中小企業のま

ち大田区の産業と、それから環境、これの両立を目指していきたいと考えてございます。以上でございます。

私からは、本区のものづくり産業と宇宙飛行士との交流に関するご質問にお答えをさせていただきます。テレビドラマでも放映されました「下町ロケット」のように、本区には高い技術力を背景に、実際に宇宙開発などに関わっている企業やスタートアップがいくつも存在します。一昨年話となりますが、本区とDX推進に関して連携協定を締結しているアバターイン社が、国際宇宙ステーションの日本実験棟「きぼう」に遠隔操作ロボットを設置しまして、地上から操作する実証を行うなど、遠い存在の宇宙は本区にとっては身近に感じられ、また、ビジネスチャンスとしても捉えることができる環境になりつつあると考えてございます。宇宙飛行士からもたらされる情報や経験などを基に、技術改良や新技術開発が進んでいくことは、区内産業化の一層の発展にとどまらず、我が国の宇宙開発にも貢献できる可能性があると考えてございます。こうした中、将来を担う子どもをはじめ、世代を超えた多くの区民が、宇宙飛行士との交流を通じて科学技術に関心を持つことができれば、産業のまち大田の新たな魅力となることも期待できます。区内産業界とともに歩み続ける産業経済部及び産業振興協会では、宇宙をはじめ、様々な分野の先端技術や魅力に触れていただく機会を提供できるよう、今後も引き続き取り組んでまいります。私からは以上でございます。

▶今岡福祉部長

私からは、特別養護老人ホームなどの増設に関するご質問にお答えいたします。高齢者やそのご家族のために介護基盤の整備は重要です。区内には19施設の特別養護老人ホームがあり、その定員は1906名ですが、1施設が大規模修繕中のため、現在の定員は1823名です。特別養護老人ホームの入所に関しましては、令和3年9月時点において約1200名の方が待機されております。入居希望者が多いことから、要介護度、介護者の状況や住宅の状況等を勘案して優先度評価を行い、優先度の高い方から入所していただくよう調整しております。令和3年度から令和5年度までの第8期大田区介護保険事業計画に基づいて、現在、大森東地区に118床の特別養護老人ホームを整備する計画を進めております。この施設は、ユニット型個室に加え、低所得者にも配慮した多床室も整備し、さらに在宅介護を支える看護小規模多機能型居宅介護も併設し、令和6年4月に開設する予定でございます。また、区では、より小規模で家庭的な雰囲気認知症高齢者グループホームなどの地域密着型サービスの整備も推進しております。区としては、今後も特別

養護老人ホームをはじめとした様々な介護基盤の整備を積極的に進め、介護度の状況により在宅生活が困難になった場合でも、高齢者が住み慣れた地域で安心して暮らせるよう取り組んでまいります。私からは以上でございます。

▶伊津野保健所長

私からは、带状疱疹ワクチンに関する三つの質問にお答えいたします。

まず、带状疱疹ワクチンの効果に関する質問ですが、带状疱疹は、以前に感染した水痘ウイルスにより引き起こされる病気で、治った後に神経痛が長く残る場合もあり、生活に支障が出る方もいることはご指摘のとおりです。带状疱疹の発症予防としてワクチンの効果があると認識しております。

次に、带状疱疹ワクチンの区民への周知に関する質問ですが、ワクチンで防げる病気には様々な種類があり、乳幼児の予防接種については、母子健康手帳とともにパンフレットを同封したり、予診票の郵送時にもワクチンの情報をお伝えしております。また、予防接種法に規定されているものについては、区ホームページで周知を行っております。ご指摘のワクチンについては、現時点では予防接種法に規定されておきませんが、周知方法については検討してまいります。

最後に、带状疱疹ワクチンの助成に関する質問ですが、带状疱疹の予防にワクチン接種は効果があることは認識しておりますが、区では、国や東京都の動向を注視しながら、助成制度について研究してまいります。私からは以上でございます。